

## 第2回佐倉教育ビジョン策定懇話会 会議録

日 時 令和元年 7 月 26 日(金) 13:30 ~ 15:30  
場 所 議会棟2階第4委員会室  
出席者  
委 員 〔敬称略・名簿順〕  
大野 尊史 佐藤 和浩 腰地 みなこ 吉村 真理子  
大塚 均 高橋 正彦 根本 裕代  
教育次長 花島 英雄  
事務局 教育総務課 課長 川島 淳一 主査 今川 孝夫  
主査補 林 真理子 主任主事 平田 泰也  
傍聴者 2名

### (1)国・千葉県及び県内他市の教育振興基本計画について(資料1~3)

事務局から配布資料に基づき、国、千葉県の教育振興基本計画の概要、県内他市の教育振興計画にあたるもの策定状況、体系について説明した。

市の総合計画については、まだ策定作業中である。

### 《質問および意見》

なし

### (2)「教育に関する意識調査」について(資料4)

事務局から教育に関する意識調査の概要等について説明した。

### 《質問および意見》

(委員) 発送件数に対する回収率の低さは、前回と比べるとどうなのか。

(事務局) 市民の回答率は低くなっている。企画政策部で実施している市民意識調査に同封する形で発送しているものなので市民にとって負担になっているのかもしれない。保護者、児童、生徒の回答は、学校を通じて回収しているため、回収率は高い。

(委員) 市民の方は教育に対して答えにくい部分もあるのかもしれない。今回の情報を発信して回収率を高めていきたい。

(委員) 回答している保護者と児童生徒を別の学校にした理由はあるのか。学校によって環境が異なるので、そのまま比較することはできないのでは。

(事務局) 学校の負担にならないよう重複を避けたもの。なお、保護者を対象にする学校と、児童生徒を対象にする学校を分けるにあたっては、同じ地域の中で回答する学校を分散させた。いただいたご指摘については、今後の参考とさせていただきたい。

(委員) 3 ページ問5の「佐倉の教育」の意味することとは何か。「佐倉の教育」といえば、学校教育、社会教育が当然含まれるものだが、内容を見ると学校教育に関する内容が多く、社会教育に関する設問が加味されていないのでは。

(事務局) 社会教育の視点も含めて文言を設定していたが、確かに学校教育を想起させる内容でもある。頂いた意見は、今後の調査に活かしていきたい。

(委員) 6 ページ問8の回答5「社会教育施設の整備・充実」は音楽ホールや市立美術館も含めて想定しているのか。公民館、図書館は別なのか。

(事務局) 回答5の「社会教育施設の整備・充実」は施設、設備のようなハード面を意識しており、回答6の「公民館や図書館の事業の充実」は、主催事業等のソフト面を意識している。

(委員) 同じページで回答1の「生涯学習の推進」は市民カレッジ等をイメージしているのか。

(事務局) 主催事業の実施も広い意味では「生涯学習の推進」となるので、一部が回答6と重複している箇所もある。

(委員) 7 ページ問9の回答8「市民が参加できる場の提供・情報の発信」は、ホームページや広報等での周知等が図られていないということか。

(事務局) 事業を行う際のアピールが十分できていないというご指摘を頂くことがあり、そういったことが含まれているものと捉えている。

### (3)教育ビジョンの策定にあたって(資料5)

事務局から佐倉教育ビジョンの計画策定の概要、現状と課題等について説明した。

#### 《質問および意見》

(委員) 佐倉教育ビジョンは佐倉市の教育の未来像である。平成15年から計画が始まり、成果や課題の蓄積について記載があれば、ビジョンがより明確になるのではないか。佐倉市で生まれ、礼儀や人間性、協働、佐倉を愛する心は、どこで育てられるか。これは、教育でできる前提で書かれているか、実際はなかなかうまくいかない。

(委員) これまでを振り返って反省、成果を明確にふまえたものを記載するといいいのでは。

(委員) 学校教育の記述が多いのに対して、家庭教育、社会教育の記述が少ないと感じる。

(委員) 市で課題となっているポイントについて話していくのもいいと思う。

(委員) 佐倉の教育の現状と課題について、「(1) 佐倉教育ビジョンの評価」とあるが、教育ビジョン推進計画に基づいて達成状況を毎年評価しているなら、記述にあたっては、もう少し具体的に達成状況、課題を盛り込むとわかりやすいのでは。

(委員) 教育に関する意識調査をみると、例えば、資料4の8ページで、「子どもたちが安全で安心して学べる環境づくり」が満足度も重要度も高く、見守り活動が充実していると市民が感じていることがわかる。これは、佐倉の教育の現状と課題部分の評価の裏付けになるので、そういった記述を入れることで成果がでていと表現できるのではないか。

(委員) 資料4の8ページの回答9「市民が参加できる教育の機会の提供」は、学校教育に市民が入ってもらい、というところがうまく機能していないのか。

(事務局) 具体的にどういったものを市民の方が念頭において回答されたかわからないところはあるが、例えば、教育に関する情報を市民の方が入手したりするといった部分がうまく機能していないなどと感じているものと思われる。

(委員) うまくいったことのある事例を共有できるとよい。

(委員) 行事に目的を持つことや、イベントを通じて何を構築するか考えれば、より良い方向につながると思う。

(委員) 「2 佐倉の現状と課題」の基本方針3の、佐倉学の「学校での取組に対する保護者からの評価が高く」という記述について、教育に関する意識調査結果をみると、評価は低い。何を根拠にしたのか。

(事務局) 数値の記載はないが、市民意識調査の自由意見欄に記載があったためである。

(委員) 記載するときには、数値的な根拠を基に記載した方がよい。また、教育ビジョンの評価の積み重ねを根拠にできるとよい。

(委員) 「2 佐倉の現状と課題」の基本方針3の記述について、武家屋敷は、「県指定文化財の」とあるが、国登録文化財も含んでいるので、記述を修正した方がよい。

#### (4)教育ビジョンの体系について

事務局より教育ビジョンの体系について説明した。

体系の文言について、基本理念、目指すべき市民像及び基本方針は現状の計画と同様にしつつも、現状の第3階層・第4階層（施策・目指すべき施策）についてはどちらが上位なのかわかりにくいため、名称については、第3階層を「施策の方向性」、第4階層を「施策」としてはどうかと考えている。各階層の考え方は従来と同様でよいと考えている。

## 《質問および意見》

なし。

### (5) 基本理念、めざすべき佐倉市民像について

基本理念、めざすべき佐倉市民像の案について事務局より説明した。

## 《質問および意見》

(委員) 市長の市政基本方針に係るキーワードは検討しておくべきである。市政基本方針では、「他者への思いやり」、「豊かな心を育む教育」、「才能の開花」という文言を入れている。国際化に対する配慮も文言として入れたい。

(委員) 教育に関する意識調査では、めざす市民像について、「思いやりのある市民」が多いので、「思いやり」という文言は入れたい。

「佐倉に誇りと愛着を持つ人」について、愛着は住んでいれば身につくと思うが、誇りはなかなか難しい。誇りを持つためには、他市に比べて抜きん出ているものがないと感じられないのでは。例えば、佐倉市民は、横断歩道に人が立っていたらほぼ100%止まる、というような思いやりのある街であれば誇りが生まれるかもしれない。誇りを持てるような取り組みが大事である。

(委員) ただ佐倉に住むということだけでなく、市民が、地域に協力しようとする気持ちをもってもらうことが大事である。基本理念(案)の資料の中では、「自ら考え、進んで行動する」に加えて、「協力する市民の力」のような表現を、願いとして入れてほしい。

(委員) 他と共に生きる、他を思いやる心等、他者を意識した文言を入れたい。

(委員) 「好学進取」という文言は、もともと佐倉で使われていたわけではなく、「進取の心」という表現に変えたことがあった。市民像については、15年ほど前に市内の高校生を対象に別のアンケート調査で比較したところ、佐倉市出身の学生は、他市から通っている学生に比べて、文化財や歴史を大切にしているという回答が高かった。県庁の1階にある千葉県の先人コーナーでは、ほとんどが佐倉市出身だった。文化財も県内有数である。佐倉市が持っている特色は、文化財を大切にしている、市民の方がそのことを理解して、大切にしたい気持ちがあるのが、佐倉市の特徴なのではないか。

(委員) 佐倉市は素晴らしい先人がたくさんいるのに、PRが十分でない。小さい頃からの学びの積み重ねが大事である。

#### (6)その他

今回頂いた意見を踏まえつつ内部で検討し、次回会議で文案等を提示したい。  
第1回会議録は、市のホームページで今後公表する予定である。